

古代の足助

● 永井邦仁

三河国賀茂郡東部地域の古代遺跡出土遺物を提示しながら山間部における生活拠点の動態を探る。それは7世紀後半の開始期、8世紀末～9世紀初頭の拡大期、9世紀後半以降の分散期を経て中世に至る。その軸として古代遺跡を結ぶようにしてのびる中馬街道の前身たる「塩の道」の存在を想定し、生活拠点の確立と密接にかかわるものと考えた。

1 はじめに

愛知県東加茂郡足助町（現愛知県豊田市足助町）は、中世から近世にかけて栄えた「塩の道」（註1）こと中馬街道（註2）の拠点として有名である。そのルートは、現在の岡崎市から矢作川東岸を北上しやがてその支流である巴川に沿って足助に至り（足助街道または七里街道）、そこから山間部に分け入り県境を越えて長野県飯田市のある伊那地方へ抜ける。また足助からは豊田市北部やさらに名古屋市へと至るルート（飯田街道）が分岐する。これら三河国内の「塩の道」は古代律令制度下で設定された賀茂郡（註3）の東部地域を縦貫している。

愛知県埋蔵文化財センターは、平成12～13年度に足助町所在の城山城跡の発掘調査を実施し、戦国時代（15～16世紀）につくられた山城の遺構を確認したが、そこからは14点の古代の土器が出土した。そこで筆者が城山城跡近隣の諸遺跡で出土した奈良・平安時代の遺物を調査したところ、この一帯が三河国賀茂郡東部地域に群在する生活拠点の一つであったことを知った。本稿ではこのような山間部の拠点の動向を中心に、「塩の道」ルートが形成される前提を探ってみたいと思う。

2 足助の古代遺跡

（1）巴川・足助川流域の古代遺跡

矢作川との合流地点から北東へ巴川を約17km遡ったところに足助町の市街地がある。ここから巴川は南東へ山間部を遡るが、東方へは支流の足助川がのびる。流域の地形は概ね谷地形であるが、足助町市街地を中心に狭小な平坦地（註4）がいくつかある。

城山城跡 城山城跡の山城遺構は標高約185～220mに展開し、最外郭部と市街地との高低差は約60mある。古代の土器が出土した調査区は標高190m前後である。

土器（図1-1～14）は須恵器・土師器・灰釉陶器である。須恵器は蓋・杯または碗・甕、灰釉陶器は碗または皿がある。9世紀代が中心であろう。13・14はいわゆる三河型土師器甕（北村2001）で、13は9世紀代、14は10世紀代である。

引陣遺跡 城山城跡の直下に位置し、標高151mで市街地との高低差は25mある。採集された遺物はごくわずかであるが、古代の須恵器・土師器、戦国時代の内耳鍋の小片（図1-22）が確認できた。須恵器（図1-15～19）は猿投窯編年（斉藤1995）の井ヶ谷78号窯

（註1）宮本1985で「塩の道」のひとつとして紹介されている。

（註2）鈴木1977ほか自治体史を参照。信濃国を中心に周辺の国々へと抜ける物資輸送を主体とする陸路を中馬街道と呼ぶ。信濃国と三河国を結ぶ中馬街道は、現在の長野県伊那郡根羽村にて2ルートに大きく分かれ、一つは豊川流域を南下し一つは足助方面へ向かう。なお現在では、七里街道よりも足助町から名古屋市に至る飯田街道（国道153号）が本線の扱いとなっている。

（註3）三河国賀茂郡の領域は、ほぼ全ての自治体史で豊田市（北～中部）・西加茂郡藤岡町・東加茂郡（小原村・足助町・下山村・稲武町）・北設楽郡（津具村・豊根村・富山村・設楽町北部の名倉地区）とされる（平成16年12月現在の市町村名。以下自治体名表記はこれに基づく）。

式期の蓋・椀、灰釉陶器（20）は黒笹 90 号窯式期とみられ、概ね 9 世紀代である。

石橋遺跡 引陣遺跡より下方に位置する。具体的な範囲は判明していないが、足助川に面する狭小な平坦地に展開すると考えられる。工事の際に多くの遺物が採集された。須恵器には食器の他に播鉢や甕もあり、器種のバリエーションに富む（図 2）。時期は折戸 10 号窯式期～井ヶ

谷 78 号窯式期である。53 は尾張・美濃国域で主体的にみられる濃尾型土師器甕（内堀・井川 1996）の可能性もある。54 は三河型土師器甕である。55～62 は灰釉陶器で黒笹 14 号窯式期～黒笹 90 号窯式期である。以上の暦年代は概ね 8 世紀末から 9 世紀後半と考えられる。ちなみに 63 は条痕紋系土器、64・65 は弥生時代後期～古墳時代前期、66～71 は中世の非口

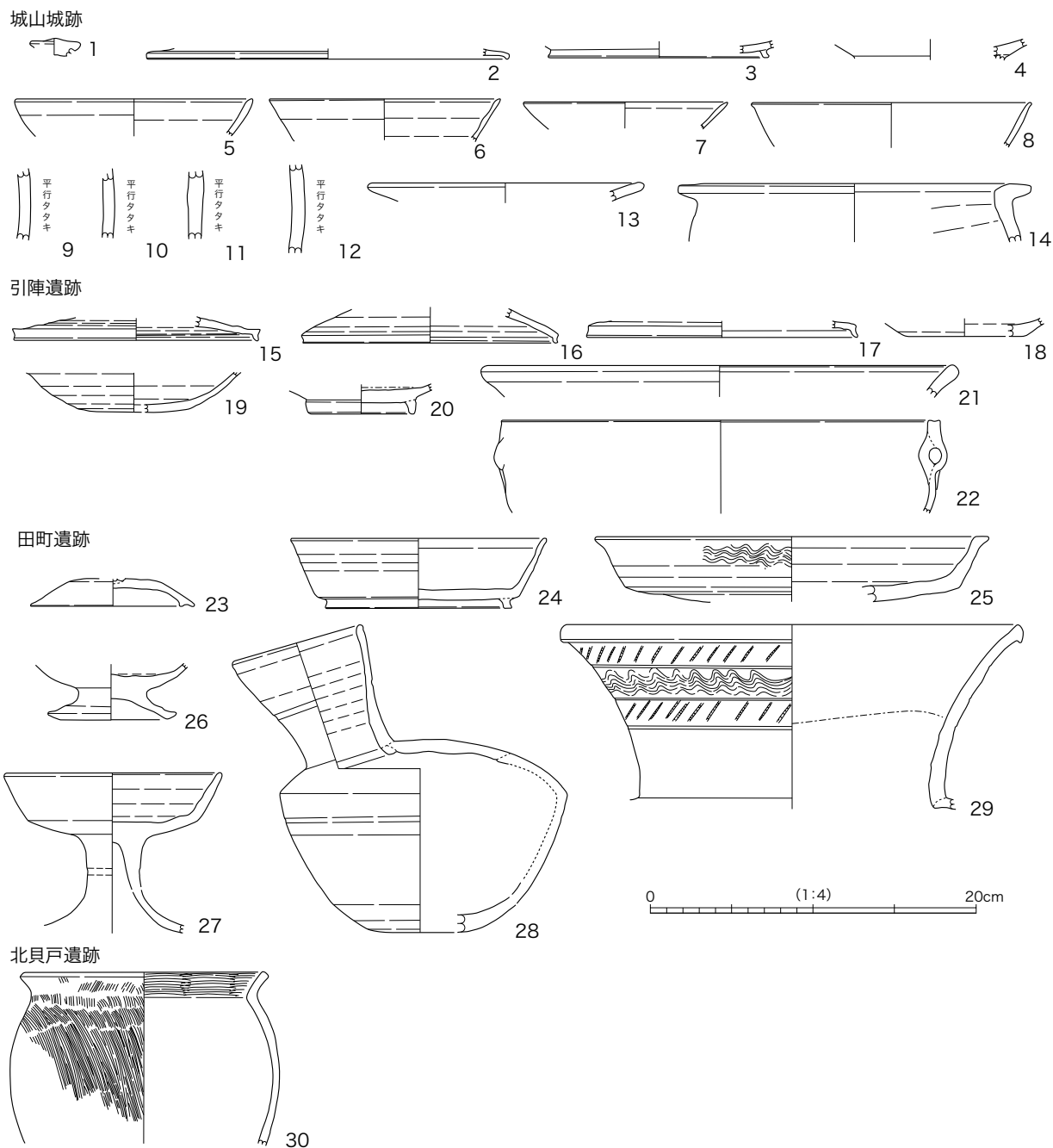


図1 足助町内出土の古代の土器実測図 その1（1：4）

（註 4）河川の合流点や屈曲部にできた河岸段丘のこと。

石橋遺跡

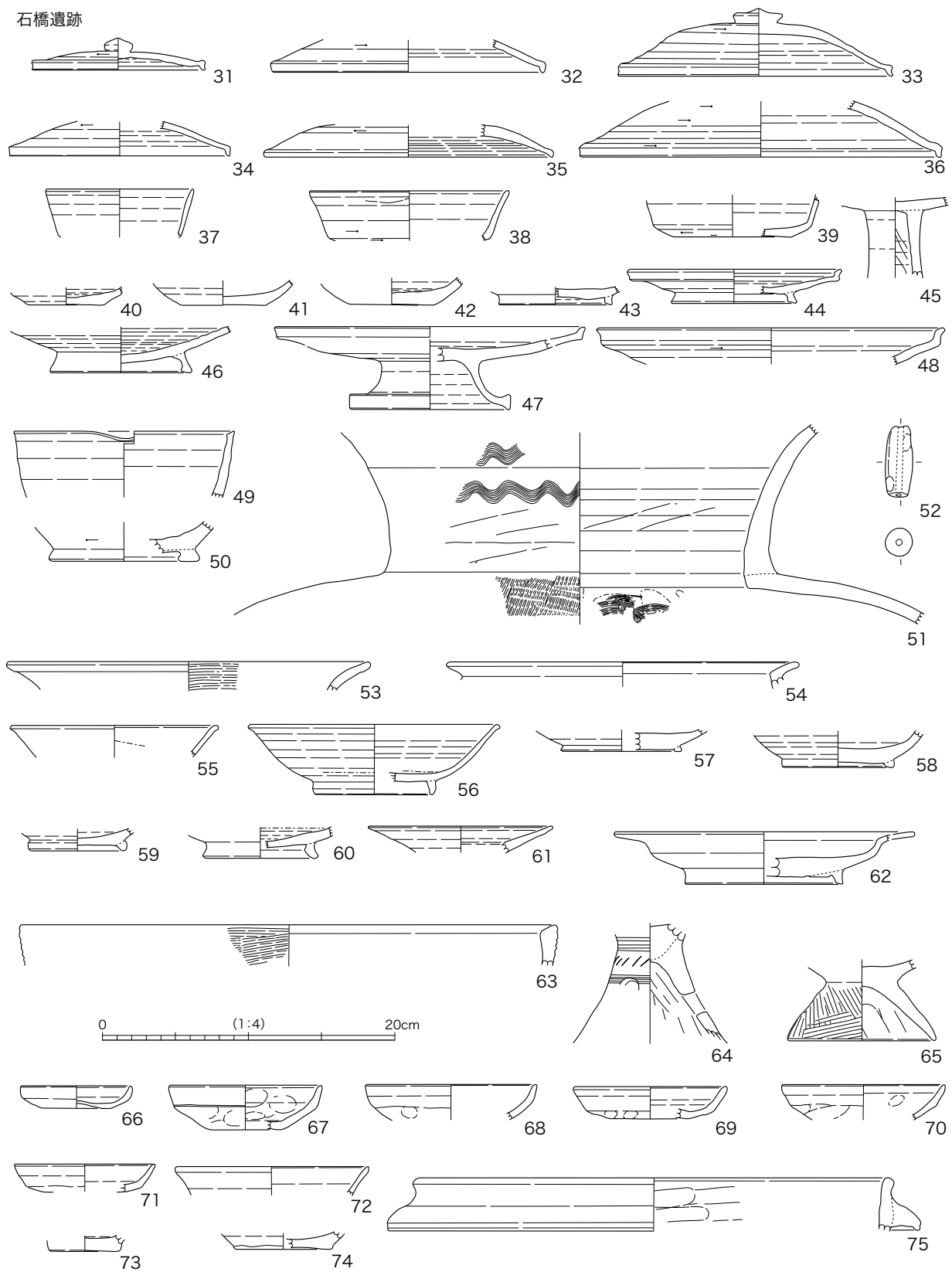


図2 足助町内出土の古代の土器実測図 その2 (1:4)

クロ土師器皿、72 は山茶碗、75 は土師質の羽付鍋である。

田町遺跡 石橋遺跡とは小河川を挟んで西側に位置する。背後の山の斜面に陣屋跡古墳という古墳時代後期の横穴式石室と推定される古墳が所在する（註5）。陣屋跡古墳は足助町内唯一の古墳である。田町遺跡では昭和30年代に大澤勝氏（註6）によって古代の須恵器が採集されたほか、工事中に柱根が出土した。大澤氏採集の須恵器にはかえりの付いた蓋、高杯・平瓶などがある（図1）。24・27・28 は色調や釉の状態がほぼ同じである。岩崎17号窯式期と考えられ、7世紀後半を中心とする。时期的には石橋遺跡と併存しない。なお足助川の対岸にある今岡遺跡では、8世紀前半と考えられる土師器長胴甕の口縁が出土しており、これを含めると、田町・今岡・石橋遺跡の順に生活域が展開したとみられる。

仲田遺跡 『足助町誌』では、仲田遺跡から出土した格子タタキ痕のある甕片を6世紀代の須恵器甕としているが、これは中世陶器である。採集資料中には7～8世紀代の遺物はみられない。しかし多数ある中世陶器に混じって平安時代の灰釉陶器が散見される。このような状況は近隣の野林本郷遺跡や宮ノ後遺跡の出土土器でも同様である。

北貝戸遺跡 石橋遺跡から足助川を3.6km遡った、川に面した平坦地にある。縄紋時代の遺構・遺物が確認され、表土中から土師器小型甕が出土した。丸胴で口縁部内面と胴部外面の明瞭なハケ目調整痕を特徴とする。濃尾型で9世紀代と考えられる。内面は全面焦げつく。

仏田遺跡 足助市街地から巴川を5.3km下った足助町大島では灰釉陶器や中世陶器が出土する遺跡がいくつか確認されている。そこから南東方向に見上げた山頂にある山名遺跡では須恵器・灰釉陶器が出ており古代の祭祀遺跡と考えられている（鈴木1977）。

（2）阿摺川流域の古代遺跡

矢作川に月原で合流する阿摺川は東西約6kmの細長い谷地形をつくり出す。そのほぼ中央に下流から寺ノ下遺跡、大貝津遺跡、森下遺跡などが所在する。

寺ノ下遺跡 矢作川合流点から3.5km遡った地点にある。1985年に発掘調査がおこなわれ、阿摺川に併行する断面V字形の溝が約60mにわたって確認された。溝は川から5～6mの高位を流れ、おそらくより上流で分岐しているものと想定される。溝や併設された竪穴建物3棟からは古墳時代中期の土器が出土した。小河川を利用した灌漑および集落と考えられ、古墳時代中期に耕作地化を目指した開発が阿摺川流域にも及んでいたことを示す好資料である。古代の遺構は確認されていないが、9世紀代の須恵器（図3-76）・灰釉陶器が出土している。

大貝津遺跡 寺ノ下遺跡から1.5km上流にある。阿摺川北岸段丘上に立地する。1987年に発掘調査がおこなわれた。灰釉陶器の中には若干ではあるが漆の付着した資料が確認されたという（註7）。さらに中世段階には灰釉系陶器碗の内面に漆の付着する例が増加する。須恵器は7世紀中葉のもの（図3-77・82）と8世紀末の折戸10号窯式期の蓋・碗（78～81）がある。灰釉陶器碗は東山72号窯式期、皿は折戸53号窯式期である。土師器長胴甕（85）は高さ36cm以上あり、外反する口縁と明瞭なハケ目調整痕がある。濃尾型の祖形となるもので7世紀後半代か（註8）。これ以外にも9世紀代の濃尾型甕と三河型甕が混在しており、破片数では濃尾型が約3分の1を占める。美濃・尾張地域との文物の交流が盛んであったことを窺わせる。

木用遺跡・森下遺跡 木用遺跡では岩崎17号窯式期～8世紀代の須恵器があるが灰釉陶器はみられない。一方森下遺跡では鳴海32号窯式期以降の須恵器と多数の灰釉陶器が出土している。大貝津遺跡→木用遺跡→大貝津遺跡・森下

（註5） 鈴木1977 参照。最近その石室内を撮影したとみられる写真が公開された（春日井市文化財課2002）。それによると奥壁は一枚石と考えられ、後期古墳でも豊田市池田古墳などと併行期となる末期のものと思われる。

（註6） 足助高等学校教諭であった。足助町内の他遺跡においても遺物採集をおこなっており、足助高校に遺物が保管されている。

（註7） 鈴木氏によると、足助町域出土の須恵器に漆付着例はなく、灰釉陶器・山茶碗でみられるという。

（註8） 濃尾型土師器甕の成立過程については内堀・井川1996 参照。

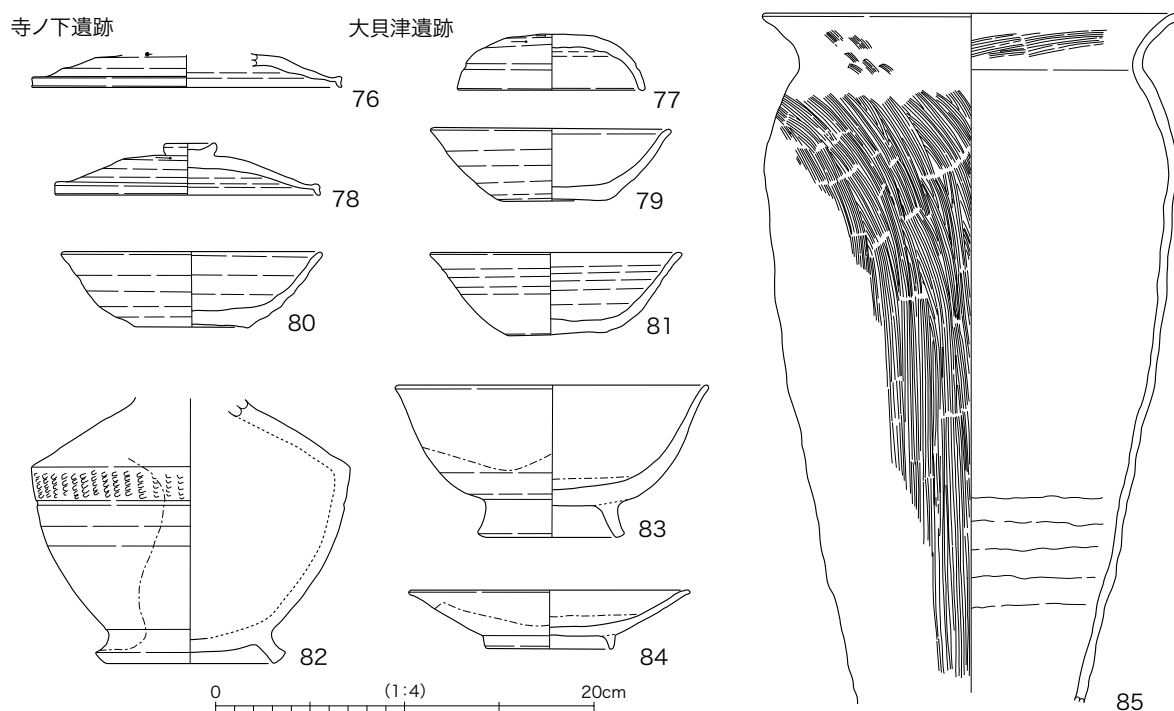


図3 足助町内出土の古代の土器実測図 その3 (1:4)

遺跡という推移が考えられる。

(3) 旭町の古代遺跡

落合遺跡 矢作川の支流介木川が形成する盆地状地形の平坦地に立地する。1981年に発掘調査がおこなわれ、古代の遺構としては掘立柱建物跡1棟と円形土坑を検出した(天野1982)。円形土坑は作業用施設とも推定されるが、生業に関わる痕跡・遺物はみいだされていない。出土遺物は須恵器蓋・杯が主体で、時期は折戸10号窯式期である。

上万場遺跡 矢作川と小河川の合流点がつくる狭小な平坦地に立地する。縄紋時代の遺構・遺物が主体であるが、7世紀代の須恵器が出土する竪穴建物がある。他にも濃尾型土師器甕など当該期の遺物が若干あり、短期間の居住があったと考えられる(図4)。

万場垣内遺跡 現在は矢作ダム湖底となった矢作川に臨む段丘上に立地する。縄紋時代の集落が確認された他、古代の土師器・須恵器や中世の青磁碗が出土した。須恵器は奈良・平安時代とみられる小片がほとんどという(吉田ほか1968)。土師器には三河型甕と1962年にや

や異なる地点で出土したハケ甕があり(図4—122)、後者はやや口径が大きく復元されているが、濃尾型甕であろう。

(4) 稲武町の古代遺跡

稲武町域の北端を矢作川が流れ、それに向かって名倉川を始めとする中小河川が北流する。名倉川には稲武町(武節)市街地で東流してきた黒田川が合流し、合流点付近に平坦地をつくっている。稲武町域の古代遺跡については赤羽一郎氏により遺物の検討がなされており(赤羽1999)、それに基づく。

清泰地古墳・清泰地遺跡 稲武町唯一の古墳だが、遺構・遺物ともにほとんど失われている。出土した平瓶は東山50号窯式期で7世紀前半という(註9)。これに隣接する清泰地遺跡では7～8世紀代(赤羽1999)の須恵器、黒笹14号窯式期以降の灰釉陶器が出土、黒田川を挟んだ南岸にある中村遺跡では折戸10号窯式期の須恵器蓋、折戸53号窯式期以降の灰釉陶器が出土している。ここから1.2km下った小河川との合流点付近にあるナカノ遺跡やアライ遺跡などでは8世紀代(赤羽1999)の須恵器、

(註9) 暦年代は斉藤1995に依拠しているが、暦年代のみでの表記の場合は概略で赤羽1999に従った。

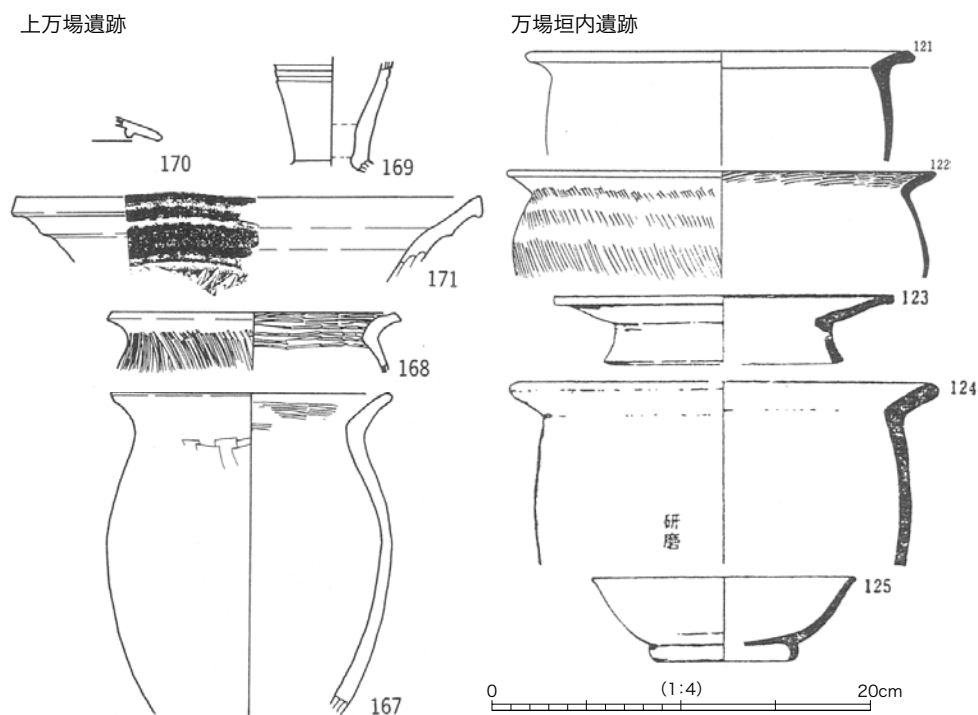


図4 旭町内出土の古代の土器実測図（1:4 池本編 1992, 吉田富夫ほか 1968 より転載）

黒笹 14 号窯式期、折戸 53 号窯式期の灰釉陶器が出土している。一方黒田川を 2.4km 遡った折坂遺跡などでは折戸 53 号窯式期以降の灰釉陶器に限られる。

宮ノ前後遺跡 名倉川の東約 4km を北流する野入川沿いでは 8 世紀代（赤羽 1999）の須恵器が出土している。現在国道 153 号は清泰地遺跡・オオバタ遺跡・宮の前後遺跡を結んでのびており、「塩の道」を想起させる。

（5）下山村の古代遺跡

下山村域では、奈良～平安時代初めに該当する古代遺跡はみられない。『下山村史』では灰釉陶器が出土する遺跡（古代末期）として大萩遺跡などが挙げられている。それらを含めて村内各遺跡で出土するのは中世以降の遺物であり、平安時代前期以前の土地利用は少なかったとみられる。

3 古代の足助と「塩の道」の前提

前章で提示した各遺跡はいくつかの遺跡群としてまとめられる（図 5）。足助町域では石橋・田町遺跡を中心とする足助市街地の一群と、阿

摺川流域の大貝津遺跡を中心とする一群がある。この他足助川をやや下った足助町大島地区にも小規模な一群が想定できる。稲武町域では清泰地古墳を中心とする武節市街地の一群がある。旭町域では介木川流域に落合遺跡を中心とする一群があろう。すでに指摘されていることであるが、奈良～平安時代前期の賀茂郡東部地域では、大川（矢作川）あるいは中河川（巴川・阿摺川・足助・名倉川など）を臨む狭小な平坦地に集住する傾向が強いといえる（註 10）。その中でも足助市街地・阿摺川流域・武節市街地の 3 エリアは、ほぼ全時期を通じて展開し続けた山間部の生活拠点として位置づけられよう。

では各拠点への集住はいつから始まったのであろうか（表 1）。足助市街地のエリアでは縄紋時代後期の今朝平遺跡が知られるが、縄紋～弥生時代の継続的な集住は認められない。石橋遺跡では弥生時代末～古墳時代前期と考えられる高杯と台付甕があり、宮ノ後遺跡では弥生時代末の土器が出土している（註 11）。しかし古墳時代中～後期にかけての遺物はほとんどない。阿摺川流域では、寺ノ下遺跡で東山 61 号窯式期を中心とする時期の須恵器杯蓋・杯身片だけで 50 点近くもの出土量があるのだが、そ

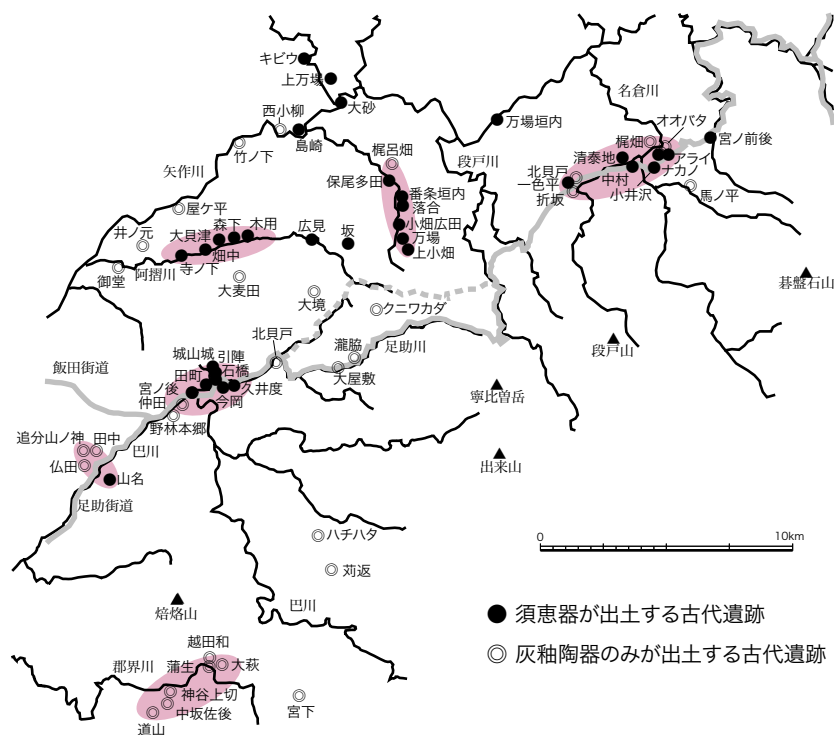


図5 古代遺跡分布図 (1:300,000)

の後木用遺跡で確認される岩崎 17 号窯式期の須恵器まで途切れてしまう。したがって、古墳時代前～中期に各拠点の開発が始まったものの、継続的な集住が確立するのは岩崎 17 号窯式期で 7 世紀後半のことと考えられる。これにやや先行する時期と考えられる陣屋跡古墳や清泰地古墳の被葬者は、拠点の確立に深く関わった人物であったと想定できよう。

次に遺跡群内で遺跡の消長をみると、田町遺跡～今岡遺跡～石橋遺跡間、大貝津遺跡～木用遺跡～大貝津遺跡・森下遺跡間にみられる生活域の全面的な移動が想定されるパターンと、石橋遺跡～引陣遺跡・城山城跡間、大貝津遺跡～寺ノ下遺跡間、清泰地遺跡～中村遺跡間にみられる生活域の拡大が想定されるパターンがあるのがわかる。前者はおおよそ 7 世紀後葉～8 世紀中葉の事象として考えられる。後者については折戸 10 号窯式期が画期であり、足助市街地の

例では平坦地からより高位の斜面地への進出という点に注目しておきたい。

そして灰釉陶器の時期になると、拠点から離れた地点へ拡散するパターン、いわば散居が急増する。これと同時に従来の生活拠点であった遺跡群での動きもみられる。例えば足助市街地では、石橋遺跡での灰釉陶器の出土量は須恵器のそれに比べて減少傾向にある。これは周辺の引陣遺跡や城山城跡を含めても同様である。ところが、市街地西端の仲田遺跡などでの灰釉陶器の量は増加傾向にある。足助市街地のエリアでは平安時代前～中期にかけて生活域の中心が西へ移動したようである。新しい中心には、平安時代末～鎌倉時代につくられた飯盛山経塚や足助八幡宮といった中世以降の信仰の場がある。足助における古代から中世への変化すなわち中世「足助庄」の前史、はこの時期に醸成されたといえる。

(註 10) 大参・天野 1980 では、旭町内の遺跡をその立地する微地形で分類している。古代遺跡は河川合流点などの河岸段丘上に立地するもの (A 類) が多い点が指摘されている。

(註 11) 宮の後遺跡出土土器は高杯と赤彩された小鉢で構成される。飯盛山を対象とした祭祀がおこなわれたのかもしれない。

(註 12) 三河国賀茂郡諸郷 (賀茂・仙陀・伊保・拳母・高橋・山田・賀弥・信茂) 配置の想定 (図 6) の概略は以下のとおり。池辺 1995 によると、『倭名類聚抄』記載郷名は 9 世紀前半の実態に最も近いといい、地名以外に考古学的視点から郷の故地を考える場合、9 世紀前半の集落遺跡の分布と対応させるのが妥当である。信茂は下山村域とする意見が多いが、該期の遺跡分布からすると疑問で、下山の地名は山田郷の「シモ (下)」に由来し、山田郷の縁辺だったと考えられる。ここでは「塩の道」原形を軸にした地域を「カミ」「シモ」に区分した可能性を提示しておきたい。

以上にみる山間部拠点の動向は「塩の道」沿いの出来事である。7世紀後半～8世紀前半における拠点の確立と「塩の道」原形の確立はきわめて連動した歴史的事象であり、古代律令制度も「塩の道」を軸にしてこの地域に浸透したと考えられる（註12）。なおこの道を往来した古代の文物について、「塩の道」にちなんだ製塩土器の出土は知られていないが、矢作川中流域に所在する7世紀後半創建の北野廃寺（岡崎市）所用軒丸瓦と、紋様が同系で製作技術の共通する軒丸瓦が伊那地方にあることは注目され

る（梶山2000）。まさに人（瓦工人）の動きそのものだが、この道が山間部以外のより広範な人々にも必要とされていた点を示しているようでもある。今後、信濃や美濃国域も含めたより広範な視点が必要となろう。

謝辞

資料の調査にあたっては以下の方々にご協力いただいた。

川合政仁 鈴木昭彦 渡津英一郎

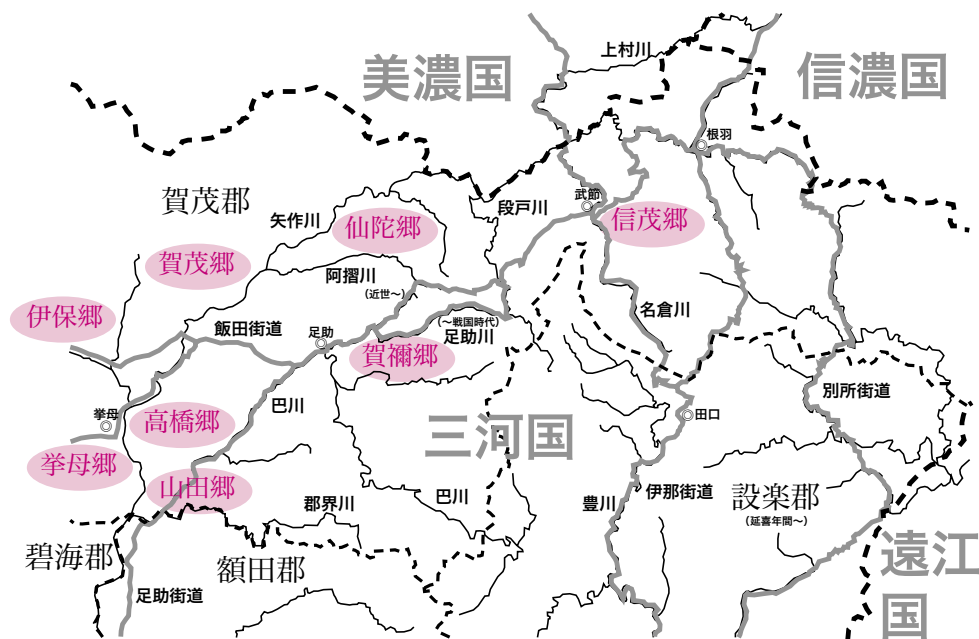


図6「塩の道」と賀茂郡の郷想定図（1:500,000）

参考文献

- 赤羽一郎 1999 「第2章 稲武町内の古代・中世遺跡」『稲武町史 考古資料編』
- 足助町教育委員会編 1988 『大貝津遺跡発掘調査概報』
- 天野暢保ほか 1982 『落合遺跡』 旭町教育委員会
- 池本正明編 1992 『上万場遺跡』愛知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第39集
- 内堀信雄・井川祥子 1996 「美濃における古代土師器煮炊具の様相」『鍋と甕 そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム大会資料集
- 大参義一・天野暢保 1980 「第2章 原始・古代」『旭町誌』資料編
- 大参義一・天野暢保 1981 「第2章 原始・古代」『旭町誌』通史編
- 梶山 勝 2000 「三河の高句麗系軒瓦」『古代瓦研究』I 古代瓦研究会
- 春日井市文化財課 2002 「東三河の古墳」『第12回春日井シンポジウム資料集』
- 北村和宏 2001 「古代「三河型甕」考」『研究紀要』第2号 愛知県埋蔵文化財センター
- 斉藤孝正編 1995 『須恵器集成 東日本編2』 雄山閣
- 下山村教育委員会編 1990 『下山村史』
- 鈴木茂夫 1977 「第2章 古代」『足助町誌』
- 鈴木茂夫編 1983 『塩狭間古窯』 足助町教育委員会
- 鈴木昭彦編 1986 『寺ノ下遺跡』 足助町教育委員会
- 鈴木昭彦編 1995 『上貝戸・瀧脇遺跡発掘調査概報』 足助町教育委員会
- 宮本常一 1985 『塩の道』 講談社学術文庫
- 吉田富夫・紅村弘・松井孟 1968 「万場垣内遺跡」『矢作ダム水没地域埋蔵文化財調査報告』愛知県教育委員会

表1 古代遺跡の消長

所在地	河川	遺跡群	遺跡	弥生時代末～ 古墳時代中期	東山50	岩崎17	岩崎41	高蔵寺2	鳴海32	折戸10	井ヶ谷78 (奥宮14)	黒笹90	折戸53	山家郷以降	備考
足助町	足助川	足助市街地	陣屋跡古墳		- - - -	- - - -									横穴式石室
足助町	足助川	足助市街地	田町	■■■■■		■■■■■									
足助町	足助川	足助市街地	今岡				□□□□	□□□□							土師器甕1点
足助町	足助川	足助市街地	石橋						■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	
足助町	足助川	足助市街地	引陣							■■■■■		■■■■■		■■■■■	
足助町	足助川	足助市街地	城山城							■■■■■	■■■■■	■■■■■		■■■■■	
足助町	足助川	足助市街地	久井度				(須恵器)							■■■■■	遺跡地図から
足助町	足助川	(単独)	北貝戸								□□□□			■■■■■	古代遺構なし
足助町	足助川	(単独)	大屋敷										■■■■■	■■■■■	
足助町	足助川	(単独)	瀧脇										■■■■■	■■■■■	
足助町	巴川	足助市街地	野林本郷									■■■■■	■■■■■	■■■■■	
足助町	巴川	足助市街地	仲田										■■■■■	■■■■■	
足助町	巴川	足助市街地	宮ノ後	■■■■■										■■■■■	
足助町	巴川	大島	追分山ノ神								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	遺跡地図から
足助町	巴川	大島	仏田								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	遺跡地図から
足助町	巴川	大島	田中								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	遺跡地図から
足助町	巴川	大島	山名				(須恵器)				- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	山頂祭祀遺跡
足助町	阿摺川	阿摺川	寺ノ下	■■■■■						■■■■■	■■■■■	■■■■■		■■■■■	
足助町	阿摺川	阿摺川	長沢		□□□□	□□□□					- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	異形土師器甕
足助町	阿摺川	阿摺川	畑中				(土師器・須恵器)							■■■■■	遺跡地図から
足助町	阿摺川	阿摺川	大貝津			■■■■■				■■■■■	■■■■■	■■■■■		■■■■■	
足助町	阿摺川	阿摺川	木用			■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■					■■■■■	
足助町	阿摺川	阿摺川	森下						■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	
足助町	阿摺川	阿摺川	御堂								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	遺跡地図から
足助町	阿摺川	阿摺川	井ノ元							(須恵器:平安時代)				■■■■■	遺跡地図から
足助町	阿摺川	阿摺川	東田面								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	遺跡地図から
足助町	阿摺川	阿摺川	西田面				(須恵器)							■■■■■	遺跡地図から
足助町	—	(単独)	中ノ切	■■■■■			(須恵器)							■■■■■	土師器台付甕
足助町	—	(単独)	大麦田								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	遺跡地図から
足助町	—	(単独)	大境								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	遺跡地図から
足助町	—	(単独)	クニワカダ								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	遺跡地図から
足助町	—	(単独)	夜家	- - - -										■■■■■	土師器
旭町	介木川	介木川	落合						■■■■■	■■■■■				■■■■■	
旭町	介木川	介木川	梶呂畑								- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	介木川	介木川	保尾多田		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	介木川	介木川	番城垣内		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	介木川	介木川	小畑広畑		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	介木川	介木川	万場		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	介木川	介木川	上小畑		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	阿妻川	(単独)	キビウ		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	矢作川	(単独)	万場垣内		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	■■■■■	- - - -		
旭町	矢作川	(単独)	上万場			■■■■■					□□□□	□□□□		■■■■■	
旭町	矢作川	(単独)	大砂		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -					『旭町誌』から
旭町	矢作川	(単独)	島崎		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -			- - - -		『旭町誌』から
旭町	矢作川	(単独)	西小柳								- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	矢作川	(単独)	竹ノ下								- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	阿摺川	(単独)	榊野広見		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町	阿摺川	(単独)	坂		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町			屋ヶ平								- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町			ホンゴ								- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町			西洞								- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町			石田								- - - -	- - - -	- - - -		『旭町誌』から
旭町			東安寺下		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -					『旭町誌』から
旭町			尺地		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -					『旭町誌』から
旭町			大沼		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -					『旭町誌』から
稲武町	黒田川	稲武市街地	清泰地	■■■■■					■■■■■		■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	黒田川	稲武市街地	清泰地古墳	■■■■■											赤羽1999
稲武町	黒田川	稲武市街地	中村							■■■■■			■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	黒田川	稲武市街地	北貝戸										■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	黒田川	稲武市街地	折坂									■■■■■	■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	黒田川	稲武市街地	一色平		- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	名倉川	稲武市街地	小井沢							- - - -			■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	名倉川	稲武市街地	梶畑								■■■■■			■■■■■	赤羽1999
稲武町	名倉川	稲武市街地	ナカノ					- - - -	- - - -	- - - -			■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	名倉川	稲武市街地	アライ					- - - -	- - - -	- - - -				■■■■■	赤羽1999
稲武町	名倉川	稲武市街地	オオバタ							■■■■■			■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	井山川	(単独)	馬ノ平								■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	入山川	(単独)	廣田										■■■■■	■■■■■	赤羽1999
稲武町	野入川	(単独)	宮ノ前後					- - - -	- - - -	- - - -				■■■■■	赤羽1999
稲武町	大桑谷	(単独)	横手											■■■■■	赤羽1999
下山村	—	(単独)	刈返								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	『下山村史』
下山村	郡界川	東大沼	大萩								- - - -	- - - -	- - - -	■■■■■	『下山村史』
下山村	郡界川	東大沼	蒲生											■■■■■	『下山村史』
下山村	郡界川	東大沼	越田和											■■■■■	『下山村史』

(凡例)

■■■■■ 須恵器・灰釉陶器あり

□□□□ 土師器のみ

- - - - 想定・概略的記述があるのみ